

第4回呉市都市計画マスタープラン検討委員会 摘録

- 1 日 時 令和4年12月23日（金）15時40分～17時00分
- 2 場 所 呉市役所本庁舎 防災会議室
- 3 概要・骨子

15:40

【江田副市長挨拶】

呉市副市長の江田でございます。

構成員の皆様におかれましては、ご多忙中のところ、お集まり頂き、誠にありがとうございます。

本検討委員会は、昨年9月と今年5月、8月に続きまして、第4回目の会議でございます。

呉市では、皆様から頂いたご意見を反映させた呉市都市計画マスタープラン全体構想（案）及び地域別構想（素案）を整理し、10月20日から11月15日までの間、呉市内の18地域において地域説明会を開催いたしました。

本日はその結果のご報告とともに、それらの地域説明会や呉市議会などでの意見を踏まえて整理をしまして、「呉市都市計画マスタープラン（案）」について、ご報告させて頂きたいと考えております。限られた時間ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

15:42

【議事1】

議事1 「呉市都市計画マスタープラン（案）について」事務局から説明（資料2，資料3）

15:50

【質疑・意見交換】

構成員からの主な意見は次のとおり

- 全体的に記載の内容について不足はないと感じている。説明会において住民意見を吸い上げ、それを踏まえた修正に取り組むなど、計画案にしっかりと意見を反映できていると思う。
- 次の改定の際の助言という形でお聞き頂きたい。第4章の地域別構想の中で各地域の内容に記載のある「分野別の都市づくりの方針に基づく施策など」について、市全域で取り組む共通の施策等もあると思うので、仕方ないことではあるが、重複した内容が記載されることとなる。重複していること自体が悪いのではなく、これは、地域別に分割して計画を作成することによって生じる問題であると感じている。

例えば公共交通の内容については、基本的にはどの地域でも同様の課題を抱えていると思う。それに対しては、地域の枠を超え、地域間で一つの路線として運行することとなるため、地域別に分割して記載することには馴染まない印象もある。

この度の計画案においては、個別の道路名や地域名を記載するなど、具体的な表現とすることで地域性を引き出す努力はして頂いている中であるが、次期の改定の際には、例えば、地域で取り組む比較的小さな事業等の地域に分割すべき内容を中心として記載するなど、より地域性が感じられるように地域別構想のとりまとめ方についても更に研究をして頂ければと思う。

⇒篠部座長

案としては異論無いという前提での助言であった。これからの具体的な都市づくりの対応においても、地域別の細かな課題を踏まえた上で都市計画の取り組みを進めて頂きたい。事務局においてはよろしく願います。

- 説明会における約240名の意見を踏まえながら、社会情勢の変化の大きな時期において、改定案としてよくとりまとめられていると思う。

○ これから都市づくりを進める上で期待することについてお話しする。

一点目は、以前から意見を述べている通り、出生率を上昇させる少子化対策としての都市づくりはあり得ると考えている。そのポイントは、改定案にもある通り、「コンパクト」がキーワードであり、職住近接による時間的なゆとり、また、都市機能がコンパクトにまとまって、かつ動線上に立地していること、加えて親との同居・近居を実現するまちである。

出生率の上昇に関連する都市計画の動向として、例えば、京都府では鉄道駅周辺の容積率を緩和することで事業所の立地を促し、職住近接の実現によって通勤時間を短縮するといった取組も見られる。呉市においても、まちの結節部となるエリアに事業所を増やすことで、広島市への通勤を要しない都市づくりを進めるといったことも考えられる。

○ 二点目は、日本製鉄の全設備休止に関する内容であるが、計画案にある産業構造の多様化を図っていくという考えはその通りであると感じている。そういった中で、今後、呉市で取り組まれる観光産業とこれまでの製鉄業等の製造業は対照的なものであると考えている。製造業は、製鉄所という機械設備を資本としながら、一定の雇用、また比較的高い賃金を生むものであり、加えて、原材料やサービス等を含め関連産業による地域への波及が大きいものと思う。

一方で、観光産業は人の知恵やサービスの提供によるもので、製造業と比較した際に、賃金が同等程度となるかは明確ではなく、また、観光産業は複合型の産業ではあるものの、観光産業の中での波及はあるが、呉市全体としての波及効果がどの程度あるか、そういった面で雇用の質や地域への波及等も大きく違ってくると思う。

ただし、産業構造は、10年もすれば変化していくため、一つの節目と捉え、新たな産業構造を構築していく取組は必要であり、進めていくべきである。呉市には、大和ミュージアムや自然環境等の観光資源が資本としてあるので、これらを生かしながら、いかに高付加価値化していくか、所得の増加によって、定住人口や出生率を上昇させるような、観光産業をつくって頂きたい。また、単に産業構造が多様化するだけでな

く、若い人たちの希望を実現できる、呉市で暮らしたい、子どもを産み育てたい、そういったことを支える産業基盤となれば良いと思う。

⇒篠部座長

委員会においては、終始、出生率、少子化対策としての都市づくりについて意見を頂いた。

また、産業構造の転換に関して観光産業の話があったが、本委員会において、定住人口のみならず、交流人口や関係人口の声を取り入れた計画とすべきであるとの提案を頂き、市外居住者へのアンケート調査を実施した。この結果より、呉市の歴史的な資源を生かしたまちづくりへの期待について把握することができたと思う。

日本製鉄の問題は非常に大きく、それに変わる産業をすぐに生み出すことは難しいかもしれないが、呉市に住まう方の就業先として、また、呉市の産業をリードしていくという点でも、観光は都市計画の中でも非常に重要と捉え、計画案を作成してきたと考えている。

- 計画案について特段意見はなく、今日の意見は、次の見直しに向けた考えとして捉えて頂きたい。
- 一点目は、以前の会議でも発言した通り、コロナ禍の社会においては、テレワーク等のデジタル化や働き方改革が進展し、ライフスタイルや価値観が多様化しているところである。そういった中で、コンパクトシティ、「コンパクト+ネットワーク」の捉え方がこれまでと変わってくるのではないかと感じている。

コンパクトシティが単なる人口密度の問題ではなく、ポストコロナ時代における働き方やライフスタイルの変化と連動して、土地に対する価値観に変化が生じるのであれば、コンパクトシティの考えである都市機能の集積によるメリットは非常に大きくなると感じている。今後、例えば、人口密度の高い場所への更なる人の集積が見られるのか、それとも避けている状況が見られるのか等、次期の計画改定までの10年間において、都市における働き方や住まい方がどのように変化していくかを丁寧に注視していく必要があると思う。

- 二点目としては、資料2の改定計画案の26ページにある現行計画の振返りについてである。資料3の地域説明会の結果を拝見すると、

市民の方は居住の誘導の具体的な取組をイメージできていないのではないかと感じた。そういった方への理解も含め、次期の見直しにおいては、このコンパクトシティの成果を把握するために、既に策定済みの呉市立地適正化計画と連携した詳細な振返りが求められると思う。それが一点目の内容の「コンパクト＋ネットワーク」の捉え方の見直しにもつながっていくと思う。

- 三点目としては、次期の計画策定においては、都市計画マスタープランの計画期間である「20年後の都市のあるべき姿を展望した10年間で取り組む都市づくりの方針」であることを踏まえ、呉市の20年後の姿をもう少し明確に展望できればよいと感じた。

⇒篠部座長

20年後を展望するのは、想像がつかないところもあり非常に難しいことではあると思うが、事務局においては、次期見直し時に意見を反映した検討をお願いします。

また、コンパクトシティに関する取組について、次の計画に生かせるように、しっかりと振り返りを行うよう提案を頂いたので、事務局においては、次期計画の改定の際には取組をお願いしたい。

- 計画案についてはよくまとまっていると感じている。事務局で実施された地域説明会に数カ所の地域で参加をしたので、そこで感じたことをお話する。
- 一点目として、資料3の表中にもあるように、コンパクトシティの形成に向けた取組に関して、中心部への住み替えを強制するのではないかとといった不安をお持ちの方がいらっしゃることを再認識した。
- 二点目として、地域説明会には、年配の方が多く参加されており、「マスタープラン」という言葉を始め、横文字の言葉について、何を指しているかが理解しにくいというお話も伺った。計画案では、注釈を付けて頂いているが、今後はそういった点にも留意しながら計画策定をお願いしたい。

- 三つ目としてこれから取り組む10年の計画の内容について、どのように市民に伝えていくかが重要である。計画案の全てを理解するのは難しいため、広報について今後検討して頂きたい。

⇒篠部座長

都市計画の専門用語や片仮名の用語を含め、計画の内容をわかりやすく市民へ伝えるために、広報を工夫する必要があるというご意見であったが、事務局ではどのように取り組んでいく予定か。

⇒事務局

横文字などは、国の示す考え等との整合を図るため、使用をしているものもあり、わかりにくい言葉には注釈を付して対応させて頂いた。今後の計画策定においては、例えば日本語として置き換え可能なものは横文字を使用しないような工夫に取り組みたい。広報については呉市ホームページへの掲載や出前トーク制度を活用し、わかりやすい広報に努めていきたい。

- 計画案の内容について異議はない。地域別構想では取組が細かに整理されており、自分が住む地域の今後の都市づくりがどのように進んでいくかを知ることができると思う。
- そういった中で、もし、この委員会の構成員として声かけをいただかなければ、私自身もこの計画について知り得ないものであったかもしれないと感じている。難しい言葉などの問題もあるが、まずは、市民の方の目に触れる機会を増やし、例えば、高校生であれば概ねの理解ができ、呉市についての興味・関心を持っていただけるとは思わないかと思う。それが、呉市に住み続けたいと感じることに繋がり、また、地域別構想を見て、自分の生活を踏まえてどの地域に住みたいかを考えることに繋がると思うので、多くの方に知って頂くような広報をできれば良いと感じた。

⇒篠部座長

完成した計画を市民に理解して頂き、官民が連携した取組を進めていくためにもわかりやすく伝える手立てをしないと、特定の人たちが見る

計画になってしまうため、市民への周知の工夫が必要ということであった。事務局では何か考えがあるか。

⇒事務局

ホームページへの掲載や出前トーク制度の活用のほか、若い方に住んで頂く、また、まちづくりに関わって頂くためにも、多くの人に知っていただけるよう広報の方法について検討したい。

⇒篠部座長

計画の内容は勿論であるが、呉市の魅力、また抱えている課題などを次世代の若い人に理解して頂き、呉市に住んで頂くためにも、出前トーク制度を通じてアウトリーチ活動に積極的に取り組んで頂きたい。

- 構成員として関わらせて頂き、良い計画ができたと感じている。呉市は重厚長大産業によって発展してきた都市であり、そのシンボリックな日本製鉄の全設備休止は大きなインパクトであり、今後は、それに対して、新たに産業施策をどう取り組んでいくかが課題となると思う。
- 本計画の完成後には、具体的に都市づくりを進めていくこととなるが、県土木としては、地域の活性化や地域連携のためには、道路ネットワークの構築は最も重要であると考えている。道路整備については、事務局で開催された説明会においても多くの要望を頂いており、国、県、市でしっかり連携して取り組んでいきたいと思う。また、平成30年7月豪雨災害を契機として、砂防や急傾斜の対策は、喫緊の課題であると考えているので、これについてもしっかりと連携しながら取り組んでいきたい。

⇒篠部座長

県、市で連携を強化して、この計画に位置付けられた施策が少しでも実現するように努めて頂きたい。

- 検討委員会に構成員として参加する以前は、広島市で就職することを考えていたが、この検討委員会を通じて、呉市の魅力について多く知ることができ、呉市での就職を考えるようになった。これからは、若

い人が住みやすく、また、子育てしやすいまちになるよう取組を進めて頂きたい。また、私自身も呉市の魅力についてSNS等を通じて発信していきたいと思う。

⇒篠部座長

これは、本検討委員会の大きな成果の一つであると思う。若い方が今回の検討委員会の取組のように、まちづくりなどに関わることで、呉市の魅力を知り、それが呉市に住み続けたいという考えに繋がるという非常に重要な内容であったと思う。都市計画マスタープランに限らず、まちづくりを進める際に地元の若者を巻き込むことは、非常に意義の有ることだと思うので、呉市においてはこのような取組を継続して頂くようお願いする。

- マスタープラン（案）については詳細な内容まで記載があるため、市民がこれを紐解いていくことは非常に難しいと思われる。先ほども意見があったように、わかりやすい周知という点では、今ある計画案を辞書として例えると、もう少し内容をコンパクトにした冊子として、例えば市政だより程度のもの、また、A3用紙1枚程度といったように、要約版があればよいと感じた。呉市のあるべき姿、目標、それに向けてどのような取組が必要なのか、そういったことを簡潔明瞭に表現できれば、市民の方にも伝わりやすいと思う。それらの要約版から詳細を理解するために、本編などを見ていければ良いのではないかと考える。

⇒篠部座長

185ページにわたる内容とはなっているが、他都市事例等も含め、適切な量であると思う。しかしながら、本日多く頂いたご意見のように、市民にわかりやすく周知するという点で、概要版はとても重要なことであると思う。事務局では何か考えがあるか。

⇒事務局

本日のご意見を踏まえ、一人でも多くの方に知って頂くためにも、どういったものが良いかを含め、今後検討したい。

- 私は、第 1 回目の検討委員会で、「出産して子どもを育てるのであれば、呉市外の都会がいい」といった話をした。そのほかにも、この検討委員会の中で、子育て支援施設の必要性やアーバンスポーツに取り組める環境、公園を使ったマルシェイベントなど、若者から選ばれる取組について意見を述べてきた。
- そういった中で、私は、やはり、一度は都会へ出て暮らすという気持ちが残っており、そうしたいと考えている。私と同世代や、もっと若い人たちの中にも、そういった気持ちを持っている人もいると思うし、逆に呉市に残りたい人、また、どうしようか迷っている人もいると思う。そんな色々な人たちが、暮らす場所を選ぶ時、例えば、一度呉市を離れたとしても、また戻ってくるといったこともあり、そういったシーンにおいて、多くの人から選ばれる呉市を目指して、この計画にも書かれている子育て支援などの施設の充実であったり、公園環境を良くしたり、働く場を生み出したり一つ一つの取組を積み上げて、計画を少しずつ実現して頂きたいと思う。

⇒篠部座長

若者の流出にどう向き合うか、そういう貴重な意見であったと思う。呉市のまちづくり全般において、若者が呉市内に留まる、選ばれる、そういったことを考えて取組を進めて頂きたい。

- ご意見の中にあつた概要版について、とりまとめた案をコンパクトにすることは非常に難しい作業であると思う。先ほどご意見にあつたが、市民の方がコンパクトシティに対する不安をお持ちであるという点について、この「コンパクト+ネットワーク」については、人口が減少していく中で、大きな方針としては理解しながらも、全ての人に利点だけがあるものではないという印象があるので、どのようにすれば実現するのか、そういった上手い解決策を市民の方は知りたいのだと思う。
- 乱暴かもしれないが、計画中のキーワードを均等に羅列する形で概要版を作成すると、より理解しづらくなるため、一番重要なこと、例

えば市民の方のご意見も踏まえ、目標1の「コンパクト＋ネットワーク」を要点として、その他の目標が関連し、ぶら下がっていくような形として整理していくと良いのではないかと思います。

⇒篠部座長

計画のコンパクト化について、どのように整理していくかという助言であった。どのような要点で整理していくかによって、概要版としての内容は大きく変わるものと考えられ、非常に難しいことであると思う。まちづくりの目標を市民と共有することが重要であるが、小学生を対象とするのか、子育て世代を対象とするのか、高校生などの地域学習にも使えるようなものとするのか、八方美人的なものは難しいとは思いますが、特に、第2章の呉市を取り巻く状況から第3章の今後の都市づくりの全体構想までの内容を、市民にわかりやすく伝えるという点を意識して作成して頂きたい。

- 概要版をまとめる際には根拠となるデータを示しながら、課題をどう捉えているのか、一つのストーリーとして筋が通っていることが重要であると思う。呉市の都市計画のストーリーを一つ作る、そういった概要版を作成できれば良いと思う。

⇒篠部座長

概要版の作成に当たっての助言を頂いたので参考として進めて頂きたい。

- この度の改訂は、呉市長期総合計画や広島県が策定する都市計画区域マスタープランの二つの上位計画の改定を契機としたものとして進めてきた。

現行マスタープランについては、人口減少が進展する社会情勢の変化を契機として改定をされたが、その後、5年間ではあるが、非常に大きな社会情勢の変化があった。新型コロナウイルス危機におけるデジタル技術の進展や働き方改革、また、西日本豪雨災害や地震の発生などにより、災害は人ごとではないという意識が非常に強くなっている。これは

改定に当たって、事務局で実施したアンケート調査の結果においても、災害を意識した都市づくりが求められていることが読み取れたと思う。

上位計画の改定が発端ではあったが、社会情勢の大きな変化を捉えた良いタイミングで改定に取り組めたと思う。改定案作成の段階では市民、また市外居住者の意見を取り入れてきた。これから、本計画の実行に当たり、市民や民間事業者等との連携を意識して、実現に向けて取り組んで頂きたい。

16:55

【都市部長閉会挨拶】

閉会に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

本検討委員会は、昨年6月に設立し、本日を含め計4回、開催させて頂きました。構成員の皆様におかれましては、公私とも大変お忙しいところ、長きに亘ってのご協力と、貴重なご意見を頂きましたことに対しまして、事務局一同、心よりお礼申し上げます。

この度の改定では、平成29年度にお示ししました「コンパクト＋ネットワーク」の考え方を基本として、ICTを活用したまちづくりや、ポストコロナ時代のまちづくり、そして、防災・減災・国土強靱化に加えまして、多様性のある産業構造への転換といった、呉市の今後の都市づくりに必要となる考え方を盛り込んだことが大きな特徴であると考えております。

また、今後につきましては、種々の調整を行った後、計画を公表することとしておりますが、事務局といたしましても、本計画が、市民の皆様や各事業者様とともに、計画的に、また着実に進めることができるよう努めてまいり所存でございます。

構成員の皆様におかれましては、今後も、まちづくりに関するお気づきの点などがございましたら、私どもへご一報いただければ幸いに存じます。

最後になりますが、構成員の皆様を重ねてお礼を申し上げますとともに、引き続き、様々な分野においてご活躍されることをお祈り申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

皆様， どうもありがとうございました。

17:00

【閉会】